



-Selp

Vol.21

2025.3



就労継続支援B型 前進主義 B型でのアート活動、好きな絵に向かって夢中で筆を走らせています。



会長挨拶

福井県社会就労センター協議会
会長 朝日正幸

令和6年3月16日に、北陸新幹線金沢―敦賀間が開業した。福井―東京間は乗り換えなしで最短2時間51分で結ばれ、高速鉄道時代が北陸にも到来した。また、福井駅西口再開発エリアのホテルが開業し、駅周辺の恐竜ロボットも動き始めた。県内各地の駅では出発式や開業記念イベントが行われ、100年に1度の歴史的な1日となった。

新幹線延伸により、首都圏との移動時間が短縮され、観光やビジネス面での交流人口拡大、企業誘致、定住や移住促進など地域経済の活性化が期待された。

そのような中で、福祉関係にとってどのような変化・効果が得られるか期待するところである。

盛り上がりを見せたパリオリンピックが閉幕し、7月28日にはパリパラリンピックが始まり、県内からは車椅子種目の伊藤竜也選手と視覚障害種目の川上秀太選手が日本代表に選出された。それぞれにメダルを手にする力を備えており、県民を元気にする活躍が期待された。スポーツの根本、フェアプレー精神で繰り広げられる熱戦を心ゆくまで堪能した。多様性や共生をテーマとして掲げる障害者スポーツの祭典は、分け隔てのない社会の実現を後押しする機会として期待された。

4月に行われた3年に1度の報酬改定に合わせて改正された障害福祉サービス事業等の指定基準には「事業者は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の意思決定の支援に配慮するよう努めなければならない」との規定が追加された。近年の障害福祉サービスでは、障害のある人の望む暮らしの実現のため、利用者一人ひとりに寄り添った意思決定支援が求められている。

いまだ終息のみえないコロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、それらに伴う物価高騰、パレスチナ自治区ガザでの戦闘、昨年1月に発生した能登半島地震や羽田空港衝突事故。この先何が起こるか想像がつかない、暗い話題の絶えない世の中ですが、県内においては少しでも明るい笑顔を灯せるよう、県セルフ協会員事業所一意団結し頑張りたいと思います。

令和6年度 3団体合同研修会

期日 令和7年2月22日(土)
会場 福井県社会福祉センター

令和7年2月22日(土)「ゼロから学ぶ障がいのある人の性のあり方」をテーマに、障害のある方を支える人(支援者)と障がいのある人(当事者)に分かれ研修会を実施いたしました。

障がいのある人(当事者)の研修は、障がい児・者の「性」を学ぶ会《ゆいの会》代表 東みすゑ氏を講師にお招きし、自身の体の大切さや互いに心地よいコミュニケーション方法などゲームやロールプレイも交えお話しいただきました。自分の気持ちをしっかり伝えることと同時に相手の気持ちも確認することの重要性を理解することができました。

障がいある方を支える人(支援者)の研修は、日本福祉大学 教育・心理学部 学校教育学科 教授 伊藤修毅先生を講師にお招きし、障害者の権利と包括的セクシュアリティ教育についてお話しいただきました。タブー視しない包括的なセクシュアリティ教育の必要性やふれあいの文化の教育的保障の重要性などについて学びを深めることができました。



令和6年度 福井県社会就労センター協議会職員研修会

期日 令和7年3月4日(火)
会場 福井県社会福祉センター

令和7年3月4日(火)、令和6年度福井県社会就労センター協議会職員研修会が福井県社会福祉センターにて開催されました。



森川氏

今年度の研修は令和6年度報酬改定と加算内容の変更を受けて、私たち施設職員はどのように内容を理解し、利用者様支援を行えばいいのか学ぶと共に、報酬改定に伴う様々な課題について意見交換を行いました。

福井県健康福祉部 障がい福祉課 自立支援グループ主事 森川健介氏を講師にお迎えし、「令和6年度報酬改定と加算内容の理解について」と題し講演をいただきました。加算がどのように改訂され、また新たな加算内容も含め分かりやすく説明を頂きました。また令和7年10月から始まる「就労選択支援」に関する説明や、県内事業所の実施意向調査の結果報告も頂き、実施事業所数や受け入れ可能利用者数の少なさなど県内の状況も認識することができました。



岡田氏

また調査部会からのアンケート調査報告では、令和6年の報酬改定後の実態として会員事業所の基本報酬及び加算に関する調査報告を受けました。基本報酬では約5割の事業所が昨年度より増額という結果でした。しかしながらスコア方式報酬区分の厳しさや、目標工賃達成指導員配置加算の減額などの影響を受けている事業所や、食事提供体制加算の要件変更に伴い加算が取得できず全額利用者負担とした事業所など、課題も多くい浮かび上がりました。

午後からは事業種別に分かれてグループワークを行いました。昼食時から各グループに分かれての交流という事で、最初は皆さん少し緊張気味でしたが、食事をとりながら各事業所の現状や課題・取り組み

などに関し意見交換を行いました。課題に関しては具体的な解決策までは見出せませんが、どの事業所も共通するものがあると感じ、グループ内で活発な意見交換ができ、大変貴重な時間となりました。

最後に各グループ内で討議した内容や感想などを発表し、新たな課題認識や情報共有をすることができました。多くの事業所から職員が参加し実り多い研修会となりました。今後利用者様の支援に役立っていければと思います。



グループワーク1



グループワーク2

令和6年度報酬改定後の基本報酬及び加算に関する調査報告

福井県社会就労センター協議会 調査部会

※本調査報告表は各種加算ごとの事業種別取得状況です。

※1事業種ごとの加算申請状況は割愛しました。

※就労B・就労A事業所への設問とした「物価高騰の中での生産活動に係る経費等の対応」「工賃向上への取り組み」、そして事業種別（7事業）の加算申請状況（アンケート結果表）についてはQRコードからの全体表で確認をお願いします。



<調査回答状況>

事業種	事業所数	回答数
就労B	38	35
就労A	5	4
就労移行	12	9
生活介護	9	8
自立訓練	2	2
就労定着	1	1
施設入所	1	1

基本報酬額年度比較状況			
	前年と同額	前年より減	前年より増
就労B	6	0	28
就労A	2	1	1
就労移行	4	3	2
生活介護	2	3	2
自立訓練	2	0	0
就労定着	1	0	0
施設入所	未回答		

初期加算			
	継続申請	今年度申請	未申請
就労B	30	0	5
就労A	4	0	0
就労移行	8	0	1
生活介護	7	0	1
自立訓練	2	0	0
就労定着	1	0	0

福祉専門職員配置等加算（Ⅰ～Ⅲ）			
	継続申請	今年度申請	未申請
就労B	30	1	4
就労A	3	1	0
就労移行	8	0	1
生活介護	7	1	0
自立訓練	2	0	0

送迎加算（Ⅰ～Ⅱ）			
	継続申請	今年度申請	未申請
就労B	33	0	2
就労A	4	0	0
就労移行	9	0	0
生活介護	7	0	1
自立訓練	2	0	0

障害福祉サービスの体験利用支援加算			
	継続申請	今年度申請	未申請
就労B	1	0	34
就労A	0	0	4
生活介護	2	0	6
自立訓練	0	0	2

視覚・聴覚言語障害者支援体制加算			
	継続申請	今年度申請	未申請
就労B	2	0	33
就労A	0	0	4
就労移行	0	0	9
生活介護	1	0	7
施設入所	1	0	0

欠席時対応加算			
	継続申請	今年度申請	未申請
就労B	33	0	2
就労A	4	0	0
就労移行	8	0	1
生活介護	8	0	0
自立訓練	2	0	0

食事提供体制加算			
	継続申請	今年度申請	未申請
就労B	31	0	4
就労A	4	0	0
就労移行	8	0	1
生活介護	6	0	2
自立訓練	2	0	0

訪問支援特別加算			
	継続申請	今年度申請	未申請
就労B	7	0	28
就労A	0	0	4
就労移行	1	0	8
生活介護	2	0	6

福祉・介護職員等処遇改善加算			
	継続申請	今年度申請	未申請
就労B	31	0	4
就労A	4	0	0
就労移行	8	0	1
生活介護	8	0	0
自立訓練	2	0	0
就労定着	1	0	0
施設入所	1	0	0

<基本報酬年度別比較状況>

☆**基本報酬**では、回答事業所中約5割の33事業所が昨年度より増額で、特に就労Bでは8割の事業所が増額となりました。昨年度より減少は全体の1割強となっています。

<各種加算の申請状況>

☆**就労B**では、加算22種で、全事業所が未申請（非該当）は7種、今年度から12事業所が5種の加算を新たに申請しています。初期加算・欠席時対応加算などの7加算についてほとんどの事業所が申請している中で未申請事業所の存在は気になるところです。

☆**就労A**では、加算19種中、全事業所が未申請（非該当）の加算は12もあり要件等のハードルが高いのではという印象で、全事業所申請加算は6と少ない状況です。

☆**就労移行**では、加算20種中、半分の9加算が未申請（非該当）で就労A同様加算要件の課題の存在が伺われます。全事業所が共通申請加算は送迎加算のみで、9事業所中8事業が共通して申請は全加算4分の1の5種に留まっています。

☆**生活介護**では、加算23種中8加算が全事業所未申請（非該当）で、1事業所のみ申請は5種でした。全事業所申請は欠席時対応と処遇改善の2種と少なく取得の困難さが目立ちます。

☆**自立訓練**では、21種類中、14種が全事業所未申請（非該当）で全事業所申請は6種の状況です。

☆**就労定着**では、7種の加算中、初期・職場適応・処遇改善の3種を前年度より申請の状況です。

☆**施設入所**では、加算11種中半分の5種加算を継続申請で、残りの6種加算は未申請の状況です。

◎**各事業所の加算合計数**は123で、前年度より継続と今年度より申請の加算総数が63、未申請（非該当）が60でした。ほぼ半分の加算は申請にも至らず「絵に描いた餅」となっています。

○基本報酬が前年度より増額の要因について回答

「平均工賃月額増・報酬単価増・人員配置区分の変更・利用者の増、稼働率の向上」
「A型：報酬単価増額・就労定着区分の上昇」「生活介護、人員配置体制等の加算増」

○基本報酬が前年度と同額又は減少の要因について回答

「要件に変更が無い」「スコア表の評価点区分の低下・一般就労実績の低下・単価の減額」
「利用時間算定の改定による単価の減額」「利用者数の減少」

○各種加算未申請（非該当）の要因について回答

「記録等の対応が不十分」「食事提供の要件に合わせられなくなり全額利用者負担とした」
「送迎の車両、人員の配置ができない」「加算に係る対象者がいない・要件を満たせない」
「職員不足等で加算取得の体制が整っていない」「準備不足や加算に対する知識不足」
「実績が無いことや対象外（非該当）となる加算が多い」「常勤看護師の雇用は困難」
「加算によっては利用するものがない」「日中活動の生活介護で出来る範囲が疑問」
「加算の変更内容に合わせられない。事業所での必要性が疑問」

○今回の報酬改定に関する意見等

「目標工賃達成加算の算定要件は、地域格差に配慮した公平なものとしてほしい。」
「利用者への支援度に応じた報酬の見直しを要望する。」
「取得し易く分かり易い加算要件としてほしい。特に生活介護の請求と時間枠の関係が分かりにくい。単位を上げようとすると送迎時間の変更が必要で対応が困難である。障がいの重いの方の利用時間は短い方が多く大幅な減収につながる。」
「メインの報酬額が平均工賃額に偏重し、利用者の知識や技術向上に力を入れている事業所が報われない。」「平均工賃計算の見直しは大きいものであった。」
「基本報酬以外の単価が下がり過ぎと思われる。」
「目標工賃達成指導員配置加算の減額は大きい。」「目標工賃達成加算の毎年取得は困難。」
「A型でのスコア方式報酬区分では運営は厳しい。」
「就労選択支援の詳細を知りたい。」「就労移行の定員規模で、20名は10名に引き下げられたが多機能型も半分の3名となれば多くのニーズに応えられると思う。」
「材料等の仕入れ価格高騰で5割以上価格が上昇している物（パルプ・石油製品等）に経費分の上乗せが出来ず減収となっている。報酬単価には反映されていない。」

第17回セルフ総合スキルコンテスト



【期 日】 2024年10月18日（金）

【会 場】 福井県社会福祉センター

【主 催】 福井県社会就労センター協議会

【特別後援】 福井フェニックスロータリークラブ

【後 援】 福井県・福井市・（福）福井県社会福祉協議会・福井新聞社
NHK 福井放送局・FBC 福井放送・福井テレビ

福井県内の社会就労センター（通称：SELP〈セルフ〉）では、障がいのある人の社会参加を実現するため、一人ひとりの個性や能力に応じて、生産から販売等にいたるまで就労に関する様々な活動を行っています。そこで、就労系事業所の利用者様が日頃の取組み成果を披露することにより、就労に必要な技能の習得や意欲の向上を図るとともに、総合的に“生きる力”を引き出すことなどを目的として、本コンテストを開催いたしました。

第17回セルフ総合スキルコンテストは、福井フェニックスロータリークラブ様とまごころ基金様より助成を頂き開催させて頂きました。



調理部門

制限時間（30分）内で、フレンチトーストの調理、味付け、後片付け等を競いました。

5チーム × 2名 = 10名

 優 勝	<p>ビーぐるファン <small>あらい ゆうあ</small> 荒井 柚明さん <small>つばたに りょうや</small> 坪谷 亮哉さん</p>
 準優勝	<p>ビーぐるファン <small>まつばら るみ</small> 松原 留美さん <small>あおき</small> 青木 みさきさん</p>
 第3位	<p>ハスの実わくわくワーク <small>くらたに としあき</small> 倉谷 俊秋さん Sさん</p>



優勝の
フレンチトースト



優勝コメント

- ・昨年はサービス部門で優勝、今年は調理部門で優勝、2連続で優勝できて嬉しかったです。全制覇で優勝できるようにもっともっと自分のできることを増やしていきたいです。
- ・二人で協力して指示通り集中して作ることができました。練習中は、キウイの皮をむくのが大変でしたが、本番では上手に切ることができて嬉しかったです。優勝最高です！！

軽作業部門 (カード揃えの部)

制限時間 (5分) 内に所定のカードを順番に並べて輪ゴムでまとめます。出来上がり数、早さ、出来栄を競いました。

13名

 優勝	第2びーぐるファン みずの ひでゆき 水野 英行さん
 準優勝	第2びーぐるファン やまぎし りゅうせい 山岸 琉聖さん
 第3位	セルプうらら かわしま けんた 川島 健太さん



優勝コメント

・練習ではうまくいかないこともあり、本番でうまくいか心配でしたが、今までやってきた中で一番うまくいきました。次は、もっとたくさんのカードで挑戦してみたいです。

軽作業部門 (封入の部)

制限時間 (5分) 内で、PP 袋に指示された3色の用紙を封入する作業の早さ、正確等を競いました。

12名

 優勝	びーぐるファン おがた けんじ 尾形 健次さん
 準優勝	セルプあすなる かとう ひろこ 加藤 比呂子さん
 第3位	足羽ワークセンター よしだ たかまさ 吉田 教将さん



優勝コメント

・最後のテープ貼りをシワにならないように丁寧にすることを心がけてたくさん練習しました。本番は緊張せずのできたのですごく嬉しかったです。結果も優勝することができてよかったです。次は違う種目でまたチャレンジしたいです。

私の短い手紙部門

今回から新設された新しい部門!! テーマ「ありがとう」
50字以内で、自分の想いを手紙で表現しました。

51名

 優勝	うめのき やまくち まゆか 山口 真優加さん
 準優勝	あけぼの園 わたなべ ちえこ 渡辺 千恵子さん
 第3位	足羽ワークセンター Yさん

優勝作品 「天国のおじいちゃん」へ
可愛がってくれてありがとう。一緒にいてくれてうれしかったよ。さびしいけどがんばるね。見守っていてね。

準優勝作品 「母」へ
「なんでこんな体に産んだの」あなたを責めた日々。今なら言える。「お母さん産んでくれてありがとう」。

優勝コメント

・優勝を知った時は驚きました。
とても嬉しかったです。ありがとうございました。

福井フェニックスロータリークラブ様
から作品の講評を頂きました。



研究部会 セルフ学習会 視察研修 令和6年11月13日(水)

令和6年11月13日(水)、利用者様に対する高賃金の支払いをしている事業所の見学を目的に、富山県の2事業所へ視察に行っていました。

1か所目のひまわりグループでは、特定非営利活動法人ひまわり・太田ひまわり・きずな・巧・奏と5か所の運営をしており、就労継続支援A型事業所や就労継続支援B型事業所を含め全体を見学させていただきました。印象に残ったことは、事業所の周りは自然に囲ま



れていたことや、古民家を改修工事されていたこと、自社で公園を作ったことなど、障害者支援施設とは思えない全体的に明るく、温かな印象を受けました。

仕事に関し、ひまわり、太田ひまわり、巧、奏の作業内容は協力工場の一員として部品組み立て及び検査やクリーニング、機関紙の封筒入れなど幅広い作業を行っていました。4つの事業所の作業風景を見学させていただき思ったことは、様々な障害を持っている方でも、一緒に働いている職員でも分かりやすく、仕事がやりやすいように自助具を使用し作業を行っていることでした。利用者の方に自助具を使用している点は理解が出来たのですが、職員も自助具を使用しており、そのおかげで不良も少なく生産性を高め、企業との信頼関係を築き、高賃金に繋がっていくのだと気づきました。きずなの活動は知的障害、自閉症の方が生活や日中活動で困っていることを訓練、支援されている事業所のように感じました。事業所の中は自閉症、知的障害のある方が過ごしやすいように一人ひとり個人スペースが設けられていました。一番驚いたことは職員の少なさでした。利用者様が20人程いるスペースに、職員は4人程配置されており声かけや協力し合い利用者様の支援をされていました。ひまわりグループは利用者様だけでなく、働く職員にも働きやすい環境づくりを行い、利用者様、職員ともに気持ちよく働くことで高賃金を達成できているのだと思いました。また、新しいことや職員のアイディアもどんどん取り入れ職員、障害のあるかた(利用者様)の気持ちに寄り添っていると感じました。

2か所目は特定非営利活動法人プラスワン Café しえるへ、昼食を兼ねて見学をさせていただきました。提供される食事はもちろん、デザート作りや配膳を主な仕事としていました。実際に作っている所は見学できませんでしたが、厨房の中や事務所も見学をさせていただきました。大きな



ホワイトボードには利用者様が手書きで1か月の目標を掲げておられたり、前年度の平均工賃額や売り上げ額が書かれていました。職員、利用者様のモチベーション向上に繋がると思いました。

	令和5年度実績	令和6年度目標
総売上	17306726円	17000000円
工賃支払総額	8004259円	8700000円
二月平均月給	38221円	40000円



厨房の中はキッチン用品をどこに戻していいのかわからず、どこに戻すのが正解が写真で場所を示していたり、料理の作り方を分かりやすく提示してありました。

今回見学させて頂いた2つの事業所で共通していた事は、利用者様だけでなく職員にもわかりやすく仕事しやすい環境づくりを工夫し提供しているということでした。それにより作業効率、職員、利用者様のモチベーションUPに繋げることで、高賃金に繋がっていました。

日々の作業の参考になる点の多い視察研修でした。

社会福祉法人 大野福社会 障害福祉サービス事業所 「よもやま」



よもやま（就労継続支援B型）では15名の方が作業をされています。作業内容は4つで、下請け・リサイクル・食品加工・販売となります。利用者さんには毎朝朝礼時に日課や作業を伝えて仕事に入ってもらっており、主に下請け・リサイクルの作業を行っています。

下請け作業をされているAさんは「働くのは楽しい。家に居ても退屈やし、よもやまに来ると気分転換になってお金も稼げるので、最高や」と話されます。

Bさんは「本当は外に働きたい」と希望がありますが、「今は外での仕事が見つからないからよもやまで仕事をしている」と話されました。

仕事をする事で、工賃としてお金を得る喜びを感じている方も多くおられますが、本当は家でゴロゴロしたいと思っている方もおられますので、『はたらく』楽しさを感じられるような支援を行っていきたくて考えています。



作業風景



作業風景



仕事終わりに外食に出かけました

社会福祉法人 大野福社会

ひまわり・たんぽぽ・うぐいす・かささぎ



大野福社会グループホームは現在大野市内に男女合わせて4ホームがあります。

女性のAさんにお話を聞くと、「グループホームでの生活は自由でいい」と話されました。どの点が自由で良いのか尋ねたところ、「毎週日曜日の夕飯は自分たちでメニューを考えて買い物から調理をすることが、同じホームの人と自由に暮らしている事を感じられて楽しい。世話人さんも優しい人が多いし、楽しく暮らせている」と笑顔で話されました。

男性のBさんは休日に大野市内で開催されているイベントに遊びに行く事を大変楽しみにされており、遊びに行ったイベントの話をお話してくれました。

一人一人が地域で生活している事を実感できるように支援を行い、地域の一員として日々過ごせるように支援をしています。



熱々で食べるのが好きなんや



世話人さんにご飯の準備



ご飯できましたよ～

令和6年度 活動内容

事業名	実施日	内容
調査部会	令和6年4月 令和6年6月 令和6年7月	・福井県社会就労センター協議会会員名簿調査 ・福井県社会就労センター協議会会員施設調査 ・部会活動調査 ・令和6年度の報酬改定後の基本報酬及び加算に関する調査
研究部会 (セルフ学習会)	令和6年11月13日	・『中堅職員の資質向上や情報交換を含めたネットワーク作りのための学習会の開催』 ・視察研修(特定非営利活動法人 ひまわり 多機能型就労支援事業所 ワークハーバー MUROYA)
研修部会	令和7年3月4日	・職員研修会(テーマ:令和6年度報酬改定と加算内容の理解について) 講師 福井県健康福祉部 障がい福祉課 自立支援グループ 主事 森川健介氏
企画部会	令和6年10月18日	・総合スキルコンテスト開催 私の短い手紙部門・軽作業部門(カード揃えの部)・軽作業部門(封入の部)・調理部門
広報部会	令和7年3月	・広報紙「e-selp」の発行
総会	令和6年5月14日	・令和5年度報告・決算報告と令和6年度計画案・予算案等について
3団体合同研修会	令和7年2月22日	・研修会(テーマ:「ゼロから学ぶ障がいのある人の性のあり方」) (1)障がいのある人(本人) 前半「大切なからだについて」後半「おつきあいについて」 障がい児・者の「性」を学ぶ会《ゆいの会》代表 東みすゑ氏 (2)障害のある方を支える人 講演「ゼロから学ぶ障がいのある人のセクシュアリティ」 講師 日本福祉大学 教育・心理学部 学校教育学科教授 伊藤修毅(いとうなおき)氏

生活介護事業の紹介

社会福祉法人あすなろ福祉会 セルフあすなろ

セルフあすなろの生活介護事業では、水曜日と金曜日に創作活動を実施しています。絵画や習字をしたり散歩に行ったりして、心身をリラックスさせるとともに、生活能力の維持・向上を図っています。また月に一度、ミュージック・ケアや外出支援等を実施しています。ミュージック・ケアでは音楽の特性を生かし、対人的な関係の質の向上、運動感覚や知的機能の改善促進、情緒の回復や安定を図ったりしています。外出支援では、季節事に市内の観光地を見学したり外食に行ったりしています。利用者様はとても楽しんでます。

